

事業所名		にじいろの木すみれ				支援プログラム（参考様式）			作成日		2025	年	3	月	10	日	
法人（事業所）理念		子どもと支援者間の愛着関係構築を療育の柱とし、事業所が全ての子ども達と保護者様にとっての安心安全基地となることを目指していく。															
支援方針		・ひとりひとりの性格や特性を理解しながら活動を展開し、「できた！」「楽しい！」の成功体験を積み重ねていけるよう支援していく。 ・支援者は、全ての子ども達との対話を積み重ねながら、ひとりひとりが「受けとめてもらえた心地よさ」を味わえるよう支援していく。 ・ひとりひとりが人と関わる心地よさを積み重ね、コミュニケーション力向上へと繋がるよう支援していく。															
営業時間			11	時		0	分から		19	時		0	分まで	送迎実施の有無		ありなし	
		支 援 内 容															
本人支援	健康・生活	・日々の健康観察を丁寧に行い、体調管理には万全を期す。また、表情等から、その日の心情等を汲み取り、個々に応じた関わりを行っていく。 ・基本的な生活習慣の学習と感染防止の観点から、来所時の手洗いとうがいの定着を目指す。 ・体調がすぐれない時のSOSの出し方を伝えていく。															
	運動・感覚	・戸外遊びを積極的に取り入れながら、遊びの中で身体機能向上が図れるよう支援していく。 ・「楽しい」の経験値を増やし、身体を動かすことの喜びへと繋げていく。															
	認知・行動	・様々な活動を通して、成功体験を積み重ねていけるよう支援していく。また、来所時に子どもと職員と一緒にその日のスケジュール(絵カード使用)を立てたり、活動内容を計画する等、「見通しを持って生活する心地よさ」を体感できるよう工夫していく。 ・戸外活動においては、社会性の学習の機会となるよう支援していく。															
	言語 コミュニケーション	・日々の活動において、子どもと職員との「対話」を大切にし、コミュニケーション力向上へと繋げていく。また、「共感」をキーワードに療育を進めながら、子どもたちが、他者と関わることへの喜びを味わえるよう支援していく。															
	人間関係 社会性	職員と一緒に活動を楽しみ、気持ちを受けとめてもらえた喜びを味わえるよう支援していく。また、職員は、黒子役または橋渡し役となり、子どもたちが安心して他者と関わる事ができるよう支援していく。事業所での生活を通して、人と関わる事の心地よさを体感できるよう支援していく。															
家族支援		送迎時や連絡帳、ライン、電話、面談等、あらゆる機会を通して情報の共有を行いながら、家庭と事業所との両輪で子どもたちの育ちをサポートしていく。また、要望に応じてアドバイスを行い、子ども理解へと繋げていく。								移行支援		児の成長を評価した上で、本人の気持ちと保護者様の思いを最大限に尊重し、事業所卒業へと繋げていく。地域の友達との関わりや部活動、または習い事への移行を応援する。					
地域支援・地域連携		要望に応じて学校や育成との連携を行い、子どもの理解を深めていく。また、相談を受けた場合は、保護者様にも了承を得た上で、個人情報に留意しながら、情報の共有を尾子になっていく。								職員の質の向上		都度、ケース会議や振り返りを通し、支援を客観視していく。また、会社内の研修ツールを大いに利用し、知識習得やスキルアップに繋げていく。					
主な行事等		季節のクッキング・お買い物体験・工場見学・初詣・カラオケ・ミルク牧場・ミカン狩り体験等															